

vol.11

〈温熱レポート〉

もっと、ずっと、
ずっと、
いい日

「もっと、ずっといい日」

発行 / 2024.1.25

株式会社MOZU 東京都新宿区西新宿3-17-7

Tel / 03-5755-3150

企画・編集 / スタッフHMNS

採算転載・非売品(会員誌)

【監修】



一般社団法人

温熱療法協会

Hyperthermia Association



富田 真浩 Masahiro Tomita

真整体施療院院長

中医師、中国嵩山少林寺認定気功師師範

佛教(ぶっきょう)学を学び、博士号を取得して大学にて佛教をはじめとした講座の教鞭をとる一方で、東京都杉並区高円寺の真整体施療院の院長として、中医師・気功師として、温熱療法の重要性を説くとともに難病疾患の臨床を重ねている。病の主要な原因を体温の低下と血液の汚れだと考える中医学・佛教医学の気功の理論を基に、先代院長の考案した気功療法(二点足身気功法)、磁器療法、温熱療法に加え、身体の各器官が有する固有の周波数にアプローチするニュースキャンという機器を用いた複合的な施術、中医学と現代科学を融合した施術により、病気になるにくい身体を作り上げる手助けを行っている。

今回は東京の杉並区高円寺にあります、真整体施療院の富田真浩院長にお話を伺います。よろしくお願いします。

よろしくお願いします。

大学で教鞭を取る傍ら、患者さんの施術もされていらっしゃるんですね。どういった経緯で施術をされるようになったのでしょうか。

実は先代院長である父から、中学生ぐらいの時には施術を教わり始めていました。

なんと、すごい英才教育ですね。では元々施術家として活躍されながら、後から大学の先生になられたと。

はい。大学では宗教や神話についての講義を受け持っています。当院では中医学をベースに、気功、佛教(ぶっきょう)医学、磁気療法、温熱療法を取り入れています。

富田先生は中医師の資格をお持ちですが、「中医学」はどのような考え方になるのでしょうか？

中医学では宇宙も自然も身体も繋がっていると考えます。例えば1年は12ヶ月ですが、身体に流れる経絡も12本。気が滞りやすい場所を「ツボ」と言いますが、ツボの数は365個、1年は365日、体温は36.5℃。

確かにそうですね！不思議な共通点です。

また、中医学では「六蔵六腑」という考え方があります。

よく「五臓六腑」は聞きますが、六蔵六腑ですか。

はい。「心包」という心臓を包む膜があるのですが、中医学ではそれも一つの臓器とみなします。西洋医学では心包も「心臓」にまとめて一つの扱いですね。

さらに世界は陰と陽でできているという考え方があります。太陽と月、男と女など一対になっているものがたくさんありますよね。六蔵六腑もそうで、肺と大腸、心臓と小腸、肝臓と胆のう、など全て対応しているのです。

——興味深いですね。医学部で習うものとはかなり違ってそうですね。

富田: だいぶ違うと思います。この六蔵六腑から「気」というエネルギーが出ていて、気が全身を巡って血液を動かしていると考えています。

——気ですか

富田: はい。逆に気が滞ると一血液が滞る一細胞に栄養がいなくなる一病気になる、という流れです。気が止(や)む一気が病む一「病気」とも言えるわけです。言葉遊びのようですが、それだけ「気」というものを重視しています。

——なるほど。しかし「気」というものも見えないので信じられないというか、認められない人も多いのではないのでしょうか。

富田: そうですね。「気」が流れる道を「経絡(けいらく)」というのですが、気も経絡も血液、リンパ、神経のように目に見えるものではありません。しかし目に見えるもので全て解決できるわけでもありませんし、愛、友情、信頼とか大切なものほど目に見えないですよ(笑)

——仰る通りです(笑)

富田: それに「気」は私だけでなく患者さんも感じることができますので、体感された方はそんなに怪しく思わないのではないのでしょうか。

気の流れをよくする磁気療法

富田: MRIはご存知ですか？

——MRIって体の内部を撮影する検査ですよ。

富田: あれは身体の中の磁場の乱れを探す検査です。磁場が乱れているところが疾患箇所なんです。ということは、その見つかった磁場の乱れを治せばいいわけです。

——確かにそうなりますね。

富田: ただ、今まで磁場の乱れは見つけられても、磁場の流れを治せるものはなかったのです。そこで先代が開発したものが「マグネファイン」になります。(写真参照)



特殊複合磁石(マグネファインⅢ)

特殊複合磁石(マグネファインⅢ)は通常の磁石と異なり、特殊な磁界を備え、両面どちらでもくっつきます。

倍にいうツボというものは通常1cmほどの範囲のため、針治療によるツボ刺激では施術師のスキルによって効果が出にくい場合があります。

しかし、マグネファインは面で作用し、中央から強力な気が出るため、針を刺したり捻ったりするよりも効果的にツボまたは反射区の邪気を取り除きます。

— これはどのようなものですか？

富田:簡単に言うと、気が滞っているツボにこれを当てると、気が通りやすくなるというものです。

— 当てるだけでいいんですか？ツボを刺激するのは熟練の技術が必要と聞きますが。

富田:確かにツボは1ミリ程度なので、鍼で刺激するのは至難の業です。鍼灸師さんでも、ちょっとずれたら効果が出ないわけですから。でもこのマグネファインは面積が広いのでそのような心配は要りません。

— 素人でも確実にツボが押せるのは嬉しいですね。どのような仕組みなのでしょう。

富田:ちょっと難しい話になりますが、磁石のS極とN極、これが拮抗している状態を「ゼロ磁場」と言いまして、そのゼロ磁場を発生させるアイテムなんです。

— このマグネファインは、どんなパターンでひっくり返してもピタッとくっつくんですね！本当に不思議です。

富田:それがゼロ磁場ができている証拠でもあるのですが、実はゼロ磁場から「気」が出ているのです。なのでこのマグネファインをツボに当てるということは気の流れを良くする＝邪気が抜けていくことになって、身体が改善していきます。

— おお、「邪気」とはまた興味深い単語が出てきました。邪気とはどういうものなのでしょう。

富田:邪気と聞くと邪悪な心を思い浮かべる方もいますが、滞った気のことです。

— まさに邪悪な心だと思っていました。

富田:邪気が体から抜けていく感覚は皆さん体感することができます。ちょっと冷たい空気が指先から抜けていく感覚です。

— 面白いですね～。正直、理屈はよく理解しきれないのですが^^;

富田:皆さんそうですね(笑)でも身体が楽になったり検査結果が良くなったりする方も多いです。

臓器を活発にするための温熱療法

— 温熱療法も取り入れられていますね。

富田:冷えや低体温は身体に良くありません。先ほどお話しした六蔵六腑もそうですが、臓器は熱エネルギーで動いています。熱を入れてあげると活発に動いてくれるんです。逆に熱を奪ってしまうようなことをすると、内臓の働きが悪くなって疾患が出てきます。

— よく「冷えは万病の元」と聞きますが、そういうことなんですね。

富田:意外なところでは腰痛なども冷えが原因のこともあります。例えば足を冷やしてしまうと腎臓や膀胱が冷えます。腎臓の横に背筋があるのでそれも一緒に冷えます。すると筋肉の柔軟性がなくなりますから、急な動きについてこれなくてぎっくり腰などを発症する場合があります。

— 色々つながっていますね。

富田:そうです。なので腰痛の場合は腰回りもそうですが、足を温めることも大切になってきます。

富田先生へのインタビューを動画で配信中！

動画は
こちらから



電気温熱コテによる注熱

—— 温熱療法も色々ありますが、先生のところではどんな方法で温めをされているのですか？

富田: 当院では温熱のコテを使っています。これを臓器のある場所に当てるのですが、かなりの温度なので服の上からでも十分に熱を入れることができます。その臓器が悪い場合は「アチッ!」とびっくりされるくらい熱く感じる方が多いです。逆に臓器にコテを当てても平気でいられれば、正常と言えますね。

—— なるほど、悪いところはものすごく熱く感じるわけですね。

富田: はい、目安としてはコテを当てて20秒程度そのままいられれば正常かと思います。しかし悪い箇所だと数秒で熱くて耐えられなくなる人もいらっしゃいます。あ、タオルをかけていますので火傷の心配はありません。

—— コンディションが悪い臓器はすぐに熱く感じるわけですね。シンプルですが面白いですね。

富田: すでに診断されている病気はもちろん、病名を診断されていなくてもその臓器がすぐに熱くなれば何かしらの疾患が起こっている可能性があるので、予防的に知ることでもできますね。



43℃の熱で効果的に状態を改善へ

温熱コテを患部に20秒ほど当てることで、身体の深部へと約43℃の熱を加えることができます。
 がん細胞は42.5℃の熱で死滅し、自律神経は43℃の熱で正常に戻ると言われています。また、この温度では正常な細胞を傷つけることはありません。

人工関節しかない、と言われた患者さんが.....

—— どんな患者さんが多く来られますか？

富田: 本当に色々な患者さんがいらっしゃいますね。やはり「がん」の方は多いです。特に通常の病院での治療でうまくいかない方が多いので、割と重症な方が多くて.....

—— 駆け込み寺的な存在ですね。全国から患者さんがいらっしゃっているようですね。

富田: そうですね。あと最近では、脊柱管狭窄や大腿骨頭壊死など、特に股関節痛がひどかったり、お医者さんに「人工関節にするしかない」など言われている人の施術はさせていただいています。

—— 「脊柱管狭窄症」は200万人以上と言われていて、「大腿骨頭壊死」は5000人ほどですが難病指定にされています。なかなか手強そうですね。

富田: 本来そうなのですが、ちゃんと熱を入れて気を流して、ということをやると、2回くらいで痛みが消える人もいますよ。

—— え!.....ちょっととんでもないですね、それは。人工関節を動められていたような人ですよ。

富田: はい。まあ脊柱管狭窄の場合は背骨の上のほうはまた別なのですが、股関節周りでしたら比較的短期間でお役に立てるかと思います。がんでもその他の症状でも、気を流す、熱を入れる、などの基本は変わりません。

—— すごい情報を聞いてしまいました.....。いくらでもお話を伺いたいのですが、紙面の都合上この辺で終了させていただきます。別途対談動画もありますので、そちらもご覧いただければ幸いです。

富田先生、ありがとうございました。

富田: ありがとうございました。